會　　務

第十九卷第十二號　昭和八年十二月

役　員　會

第十一回役員會

開催日　昭和 8 年 11 月 20 日

出席者　會　長　眞田秀吉君　副會長　大河戸宗治君　米元晋一君
前會長　那波光雄君　名井九介君
常議員　田中　甕君　内海清温君　三浦七郎君　神原信一郎君
竹股一郎君　山口　昇君
主　事　牧野雅樂之丞君

協議事項

1. 定款變更認可報告の件

定款變更認可申請中の處 11 月 10 日付を以て主務官廳より認可ありたる旨報告ありたり。

2. 地方委員に關する件

曩に委囑したる地方委員中未入會者に對し鐵道及び内務の關係者より一應入會方を勸誘することゝせり。

3. 入退會の件

國友孝君外 1 名を會員に有坂貳雄君外 46 名を准員に入會方を承認せり。

會員糸永雄策君外 1 名及び准員今村清君外 4 名の退會を許可せり。

編　輯　委　員　會

第十一回編輯委員會

開催日　昭和 8 年 11 月 20 日

出席者　委員長　草間　偉君
委　員　青木楠男君　岩澤忠恭君　久保　讓君　關　信雄君
高橋三郎君　中原壽一郎君

協議事項

1. 第十九卷第十號所載下記論說報告に對し討議依賴先を決定す。

Theorie der Roste und ihre Anwendungen. Drittel Teil.
Von Dr. Ing. Takeo Fukuda, Mitglied.

水源としての地下水の利用に就て　會員　吉田彌七

2. 第十九卷第十號所載論說報告並に彙報に對し夫々謝禮の階級及び金額を決定す。

3. 第十九卷第十二號に下記を追加す。

論說報告

琵琶湖運河及日滿運輸連絡問題　會員　工學博士　田邊朔郎

討　議

抗壓材の强制振動　會員　庄野卷治

特 許 抄 錄

制流裝置　地下水流の狀態を調査する方法　ポルトランド・セメント製造方法

鐵及鋼面上に防銹層を形成する方法　杭拔機　混合セメント製造法

地質，杭等の載荷重試驗裝置　坑掘機　測距儀

參 考 資 料

洪水貯溜池で調べた水位と樹木，作物の被害との關係　（伊 藤 剛）

ミルウオーキ促進汚泥法の擴張計畫成る　（板 倉 誠）

電弧熔接法による軌條端修理　（星 野 陽 一）

4. 第二十卷第一號登載論文決定之件

論 說 報 告

水戸國道改良工事報告　准員　工學士　鈴 木 清 一

5. 昭和 8 年度優秀論文に關する件

數年來の選定方針に基き別紙論文一覽表（省略）より選定することゝし別封を以て論文一覽表及び選定方針を各委員に送附し次回編輯委員會迄に選定の上持寄ることゝことを依頼することに決定す。

維新以前日本土木史編纂委員會

第十二回維新以前日本土木史編纂委員會

開催日　昭和 8 年 10 月 24 日

出席者　委員長　田 邊 朔 郎君

副委員長　眞 田 秀 吉君

委　員　江 澤 甚 一君　名 井 九 介君　那 波 光 雄君　那 須 章 彌君

小 川 織 三君　遠 藤 元 男君　久 野 直君　板 井 申 生君

寶 月 圭 吾君　大 河 戸 宗 治君

囑　託　北 村 嘉 太 郎君　渡 邊 俊 一君

前委員會の後本日迄集まりたる資料 14 點の報告あり，これを以て資料送附越の道府縣 31 箇所 61 點，市の分 33 市 49 點となりたる旨を報告し，次に事務並に史料編纂所の經過報告を終り，續いて下記事項を決議せり。

決議事項

1. 江戸水道設計圖（靑山會館陳列）ノアルコトヲ水道ノ委員ノ方ニ通知スルコト
2. 火藥ノ土木工事ニ使用サレタル初テノ年代及其方法ハ久野技師並ニ板井技師ニ調査方御依頼スルコト
3. 疑ニ各府縣ニ照會セシモノニシテ回答ナキモノハ各其主査委員ニ申出ソレゾレ整理ノコト
4. 史料編纂所提出ノ藩史材料書目ヲ印刷ニ附スルコト

第十三回維新以前日本土木史編纂委員會

開催日　昭和 8 年 11 月 24 日

出席者　副委員長　眞 田 秀 吉君

委　員　前 川 貫 一君　寶 月 圭 吾君　茂 庭 忠 次 郎君　小 川 織 三君

安 藝 杏 一君　眞 島 健 三 郎君　久 野 直君　牧 彥 七君

遠 藤 元 男君　板 井 申 生君　那 波 光 雄君　名 井 九 介君

伴 宜君　森 克 己君　池 本 泰 兒君

幹　事　牧野雅樂之丞君

囑　託　渡 邊 俊 一君

前委員會後本日迄集りたる資料 6 點を報告し，これを以て資料送附越の道府縣 31 箇所 63 點、市の分 34 市 50 點となりたる旨を報告す。次に史料編纂所に於ける經過報告を爲し續いて史料編纂に關し種々協議を爲したり。

二十周年記念事業委員會

開催日　昭和 8 年 12 月 5 日

出席者　委員　井上秀二君　小川織三君　大島滿一君　黑田武定君
　　萩原俊一君
　　眞田會長　米元副會長　柴原書記長

協議事項

議案としたる土木會館圖面並に收支豫算等に付き逐條審議の結果原案に多少の修正を加へこれを以て特別委員會の成案となし，一般委員會に提案することに決したるも一般委員會に對する提案は愼重を要するを以て該修正案作製の上は尙一回特別委員會に於て協議することに協議せり。

その他記事

○昭和 8 年 11 月 29 日土木學會誌第 19 卷第 11 號發行成規の手續を了し翌 30 日これを一般會員に配布せり。

○昭和 8 年 11 月中の入會者下記の通り（○印は轉格を示す）

會員　國友孝君　○澤井八洲男君　今三郎君　岡田正一君
　　川村文藏君　北村友義君　林鷹一君　廣岡勝治君
　　古市千太郎君　宮越義重君

准員　添田方平君　堀內新吉君　有坂武雄君　磯山文雄君
　　小田切甲作君　○加藤清次君　○倉知良造君　近藤正雄君
　　○佐々木世一朗君　清水則久君　○柴崎敏行君　下高原德次君
　　○下村節義君　多田彰君　中村敏男君　中山信喜君
　　永山博明君　新島幸雄君　西川久藏君　增田三郎君
　　渡部廉君

學生員　靑島弘君　伊藤弘君　梅澤健吉君　岡田彰君
　　岡田富一君　岡宮由太郎君　鎌田千代榮君　久原資郎君
　　小松公一君　清水正治君　關谷不二彥君　高橋辰雄君
　　瀧田治郎君　澁馬貞憲君　西山侃一君　馬場猛雄君
　　橋谷田良平君　早川莊夫君　平野巖君　福井吉三郎君
　　松浦茂君　宮島俊雄君　柳實君

○昭和 8 年 11 月中に於て寄贈又は交換を受けたるもの下記の通り。

土木建築資料通信第 283 號	土木建築資料通信社
交通整理標準	照明學會交通整理委員會
下水道及汚水處理法	コロナ社
工學院同窓會誌第 35 卷第 11 號	工學院同窓會
建築と社會第 16 輯第 11 號	日本建築協會
都市美第 6 號	都市美協會
稻工會雜誌第 13 號	早稻田高等工學校稻工會

G. S NEWS 第 7 卷 第11 號	ジー・エス・ニユース編輯部
建築雜誌第 47 輯第 577 號	建築學會
電氣學會雜誌第 53 卷第 11 册	電氣學會
鑄物第 5 卷第 11 號	日本鑄物協會誌
衞生工業協會誌第 7 卷第 10 號	衞生工業協會
港灣第 11 卷第 11 號	港灣協會
工業化學雜誌第 36 編第 11 册及同歐文綴	工業化學會
都市問題第 17 卷第 5 號	東京市政調査會
セメント界彙報第 308 號	日本ポルトランドセメント同業會
エンジニアー第 12 卷第 10 號	都市工學社
工業化學實驗法要錄	工業化學會
國立公園第 11 月號	國立公園協會
工事畫報新建築號	工事畫報社
動力第 26 號	日本動力協會
工政第 164 號	工政會
日本建築士第 13 卷第 4 號	日本建築士會
機械學會誌第 36 卷第 199 號	機械學會
生產管理 11 月號	生產管理社
土木建築雜誌第 12 卷第 11 號	シビル社
鐵と鋼第 19 年第 10 號	日本鐵鋼協會
業務研究資料第 21 卷第 37～39 號	鐵道大臣官房研究所
工人十一月號	日本工人倶樂部
工學彙報第 8 卷第 4 號の 1 及 2 號	九州帝國大學工學部
日立評論第 16 卷第 11 號	日立評論社
三菱電機第 9 卷第 5 號	三菱電氣株式會社神戸製作所
滲透式瀝青マカダム鋪裝標準示方書	道路研究會
タール及タール鋪裝座談會	同上
帝國學士院紀事第 9 卷第 8 號	帝國學士院
日本鑛業會誌第 49 卷第 583 號	日本鑛業會
東京土木建築業組合報第 6 卷第 11 號	東京土木建築業組合
水道第 87 號	水道社
基礎工第 1 卷	コロナ社
會報第 34 卷第 11 號	帝國鐵道協會
衞生工業協會誌第 7 卷第 11 號	衞生工業協會

會　　報

第十九卷第十二號　昭和八年十二月

役　員　會

第十一回役員會は 11 月 20 日午後 5 時海上ビル内中央亭にて開かれた，定刻既に大部分の顔が揃つた，今回の役員會は臨時總會後始めての爲か，又定款改正により學會の隆昌を將來に期待した爲か，何れも意氣頗る軒昂であつたのは何より喜ばしい，近來役員の凡てが役員會の議事に興味を覺へつゝあるを窺知出來るのである，雖て 5 時半一同着席別項の 3 件に就き議事が進められた。

1. 定款變更認可報告の件

11 月 10 日附文部大臣より眞田會長宛の認可指令を朗讀す。

2. 地方委員に關する件

役員會で定めた地方委員 279 名は何れも一方の長たる人々である，併し乍ら 60 名餘りの人々は土木學會に入會して居ない人々であることは從來の土木學會を諷刺するかの觀がある，將來の土木學會はこれ等 279 名の全部を常に會員として持つことに努力すべきものと思ふ，從つてこれ等の未入會員を如何にして學會に入會させるかは役員の力試めしとも見られるので一同愼重に熟慮して入會勸誘に關する方法を協議されたのである。

3. 入退會に關する件

今回は入會者が例月と異り 40 名以上もあつたことは臨時總會後に於ける土木學會のスタートとしては餘りにも心地よい現象である。

食後田中，三浦，山口の 3 常議員と靑木，中原の兩編輯委員とは日本標準型鋼調査委員會委員として日本標準規格調査會よりの照會に係る件に就き協議せられた。今回の照會なるものは型鋼の厚さを變更したいとの事である，型鋼の厚さを變更するなら鋼板の厚さもこれに準じて變更する必要がある。だがそれどころではない，第一型鋼の表に於ける數字の誤差の餘りに大なるに一驚を吃したのであるがさりとて調査會にその誤差を例證して見ても先方に訂正する機關がないので土木學會で好意的にでも訂正してやるより外仕方がない。と云つても計算器 3 臺を用ひても 1 年もかゝる仕事では一寸手が出ない困つた問題である。

編　輯　委　員　會

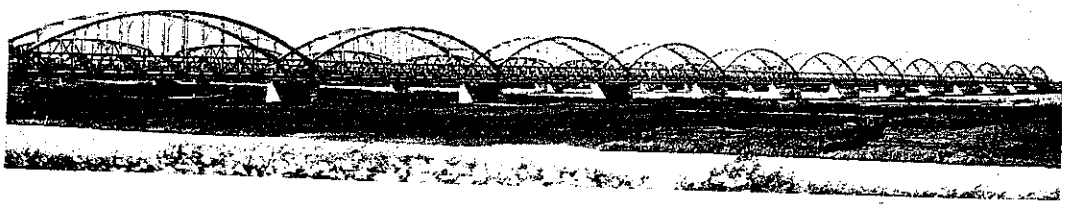
第十一回編輯委員會を 11 月 20 日開催，議題は會務欄所載の通りであつて和やかな氣分に浸りながら議事は進行したのであるが，唯每年の例に倣ひ今回先づ最初の優秀論文の選定を行つた事はいつもの會と異つた所である。優秀論文の選定に當りては數年來次の樣な方針によつて居たのであるから今回もこれに基き大體の選定を行つた結果講演全部及び論說報告 4 編を省きその他のものに就き次回迄に各委員に於て 2～3 の論文を選定の上持ち寄らるゝことに決した。優秀論文の選定方針は 1. Originality のあるもの，2. 努力の大なるもの，3. Engineering に與ふる效果の大なるもの，4. 老大家のものは遠慮することの 4 條件からなつてゐるのである。

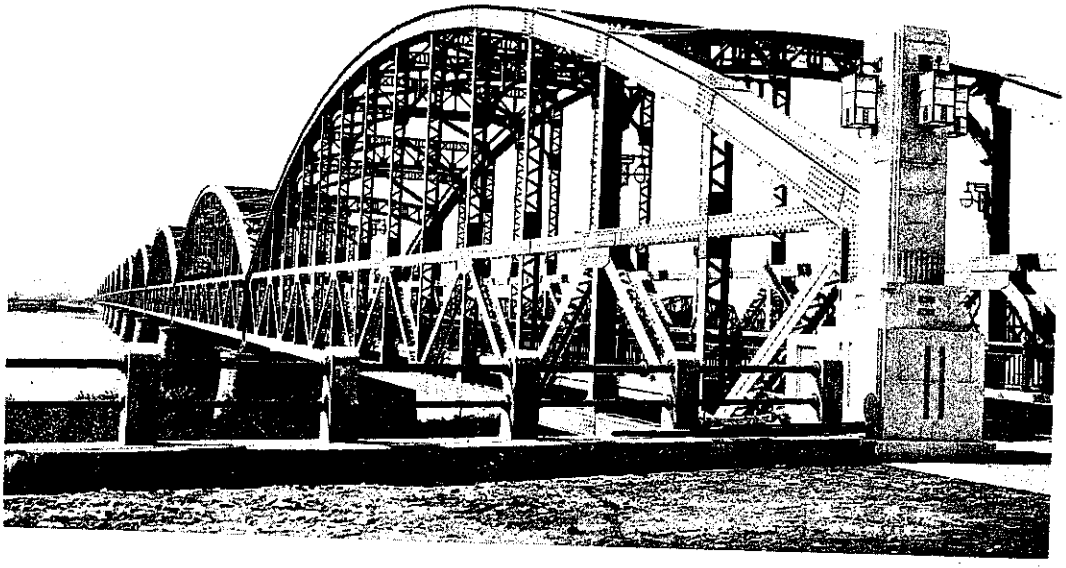
本夕は丁度役員會も別室で開催せられたのでこれと合流して食事を共にすることになつた。兩者の親睦を圖ることは畢竟我土木學會の發展に資する所多大であるから食事を共にする事は有意義であるとの見地から日常希望せられてゐたのであるが色々の都合でその機會が得られなかつた。今回は丁度都合がよかつた譯である。食後夫

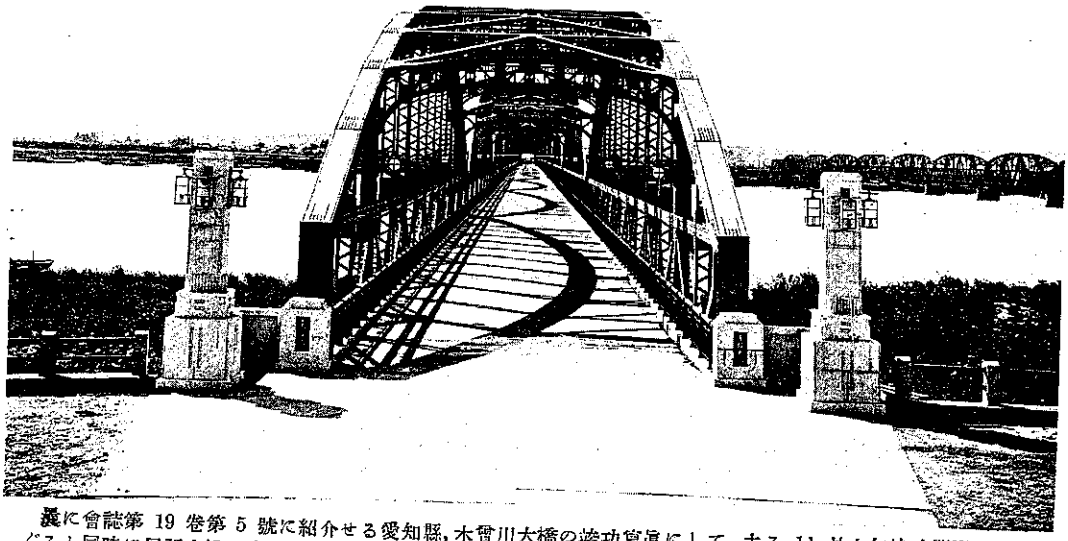
夫歡談がかはされたがこれによつて我土木學會の振興に關して常議員及び編輯委員の方々の努力せられつゝある片鱗を窺ひ知ることが出來た。卽ち一方では土木學會を强力ならしむる何者かを求むる必要があると强調せられこれに對して學會員なるが故に學會誌以外にもつと社會的に利する所あらしむるは最も有效であらう或は又人に面會するときは學會に於てのみ行ふ，これが爲には學會館を建設する必要も生ずるのであらうが學會に行くことが會員諸氏の唯一の樂しみとなる樣に仕向けると言ふことも一つの方法ではあるまいか等と色々の意見が出た。

又他方では學會誌のニュース・バリウを尙一層富ましむる目的で彙報その他の蒐集に關して草間委員長を初め各委員並に常議員の間で打合せが行はれてゐた。

尾　張　大　橋

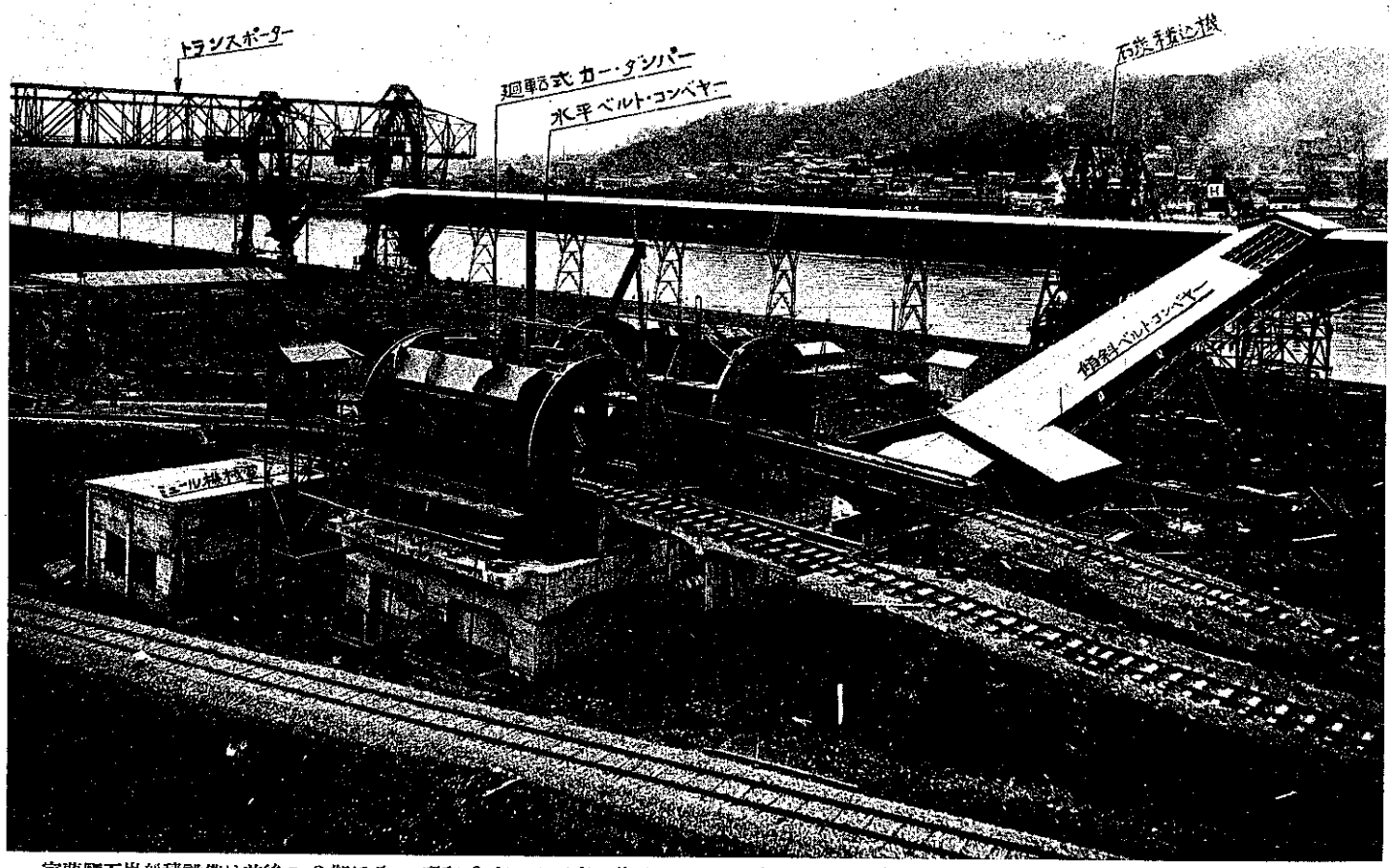






曩に會誌第 19 卷第 5 號に紹介せる愛知縣，木曾川大橋の竣功寫眞にして，去る 11 月上旬竣功開通式を擧ぐると同時に尾張大橋と命名された。橋梁全長は兩胸壁間 878.81 m，有效幅員 7.50 m，主桁 1 徑間長 63.42 m のもの 13 連と外に單構橋 1 連とより成る。昭和 5 年 3 月起工以來滿 3 年 7 月を閲し總工費 1 560 188 圓，本邦最初のランガー・トラスである。

室蘭驛石炭船積機械設備



室蘭驛石炭船積設備は前後の 2 期に分つ，昭和 3 年より工事に着手したもので本工事完成の曉には石炭年額 4 560 000 瓲を取扱ひ得る設備である。この寫眞は前期工事の主體とも言ふべき岸壁船積設備を示すもので，ミュール，カー・ダンパー，ベルト・コンベヤー及びローダー(石炭積込機)各 2 組から成り，昭和 8 年 12 月 17 日公式試運轉を行ふ筈である。この設備で年額約 2 300 000 瓲の石炭を取り扱ひ得る見込である。この内廻轉式カー・ダンパーは我國最初の施設である。尙本工事の概要に就ては本會誌第 19 卷 第 6 號，鐵道省業務研究資料第 21 卷第 37 號及び機械學會誌第 36 卷第 186 號を參照せられたい (昭和 8 年 11 月 27 日撮影)。

寄稿に關する注意事項

(1) 御寄稿は成るべく本會の原稿用紙を用ひ横書きとすること，原稿用紙は御請求次第送附す。

(2) 御寄稿は止むを得ざる場合の外は成るべく本會の原稿用紙 120 枚（本會誌 30 頁）程度とされたし，若し前記頁數を超過する場合は適宜其の程度に縮少を御願ひすることもあるべし。

(3) 假名は平假名とし，數字はなるべくアラビヤ文字を用ひられたし。

(4) 歐字は特に明瞭に認むること。

n と u, u と v, r と v, a と α, r と γ

其の他頭字と小字とを判然たらしむる事。

(5) 原稿には必ず冒頭に英文表題及內容梗概を添附されたし。

(6) 附圖附表に就ては次の各項に御注意ありたし。

（イ） 圖面はその儘縮寫し得る樣にトレーシング・ペーパー，オイル・ペーパー，トレーシング・クロース等とす。

（ロ） 凡て墨色を用ひインキ類或は彩色を施さゞる事。

（ハ） 方眼紙は青罫のものを用ひ（黃色，赤色の罫は使用せざる事）縱橫線を必要とする部分には豫め墨線にて之を描き置かれたし。

（ニ） 圖表中の文字，數字は特に大きく肉太に書し縮寫したる後明瞭たらしむる事。

（ホ） 圖表類は製版の都合上可なり汚損するものと豫め御含み下されたし。

(7) 寫眞は特に明瞭なるものを送られたし。

(8) 講演，論說報告の各欄に揭載の分には拔刷 20 部を寄稿者に贈呈するものとし，尙寄稿者の希望に依り實費にて御要求に應ずる事あるべし。

算式其の他の記し方大體標準。

(1) 本文，文字間に算式を挿入する場合には次の如く記すこと。a/b と書き $\frac{a}{b}$ を避けること。$(a+b)/(c+d)$ と書き $\frac{a+b}{c+d}$ を避けること。

(2) 獨立したる列に算式を記す場合は次の如く記すこと。$\frac{1}{3}x$ と書き $\frac{x}{3}$ を避けること。$\frac{1}{2}(a+b)$ と書き $\frac{a+b}{2}$ を避けること。$\frac{a}{b+c/d}$ と書き $\frac{a}{b+c\frac{1}{d}}$ を避けること。

(3) 千以上の數字は 53 247 000 の如く 3 つ單位に間隔をあけること。

(4) 名數は次の如く記し括弧の中の樣に書くことを避くること。

83.4 尺（八丈三尺四寸），7 吋（七吋），35 錢（三十五錢），13.56 圓（十三圓五十六錢），1〜4 時間（一乃至四時間），88 326 噸（八萬八千三百二十六噸），1931 年 1 月 1 日（千九百三十一年一月一日）。

新入會者にして既刊會誌希望者に告ぐ

本會々誌は新入會者には入會の月より順次發行に係るものより配布致すべきに付其の以前の會誌御希望の場合は一部に付下記金額振替口座東京一六八二八番に拂込み用紙通信欄に其旨記入請求せられたし

殘部內譯

第五卷一號二號	一部金　壹　圓
第六卷六號	同金　壹　圓
第七卷二號三號四號	同金壹圓五拾錢
第八卷一號	同金　貳　圓
第九卷一號二號三號五號六號	同金　貳　圓
第十卷一號三號四號五號六號	同金　貳　圓
第十一卷二號	同金　貳　圓
第十二卷二號三號五號六號	同金　貳　圓
第十三卷二號三號六號	同金　貳　圓
第十四卷一號二號三號四號五號六號	同金　壹　圓
第十五卷一號二號三號四號五號六號	同金　壹　圓
同　七號八號九號十號十一號十二號	同金　壹　圓
第十六卷一號二號三號四號五號六號	同金　壹　圓
同　七號八號九號十號十一號十二號	同金　壹　圓
第十七卷一號二號三號四號五號六號	同金　壹　圓
同　七號八號十一號十二號	同金　壹　圓
第十八卷二號三號四號五號	同金　壹　圓
同　六號七號八號九號十號十一號	同金　壹　圓
第十九卷一號二號三號四號五號六號	同金　壹　圓
同　七號八號九號十號十一號	同金　壹　圓
東京市內外交通に關する調査書	同金　壹　圓
震害調査報告書（一、二、三）	同金　參　圓
應用力學聯合大會講演集	同金拾八圓
	同金　壹　圓

本會會員轉居又は旅行の場合の注意

會員の住所の不明なるときは會誌の配布を始め其他通信上に差支候に付御轉居の際は至急明細に御通知相成度又御旅行等にて御不在となるも會費支拂には差支なき樣御配慮相成たし

會費納付に付注意

本會々費は下記の通りにして本會より發する振替集金に對し是非御支拂願度事若し此の集金書へ十五日間中三回の取立金支拂なき場合は最寄郵便局に就き本會振替口座東京一六八二八番に（拂込用紙通信欄に會費たる事を記入の事）御拂込相成度尙會費一時納付の御豫定又は其の他の都合に依り支拂なき場合は直に御通知相煩度

朝鮮滿洲の一部及び青島等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末頃迄集金を受けざるときは爲替其他の方法に依り直ちに御送金相成たし

會員種格	會費年額	自一月　至四月 第一期分二月徵收	自五月　至八月 第二期分六月徵收	自九月　至十二月 第三期分十月徵收
會員	金拾八圓	金六圓	金六圓	金六圓
准員	金拾貳圓	金四圓	金四圓	金四圓
學生員	金七圓五拾錢	金貳圓五拾錢	金貳圓五拾錢	金貳圓五拾錢

新に入會したるものは月割算として入會の翌月集金を發す

會費未納に付注意

會費は從來年額を第一期第二期第三期に分割し毎年二月六月十月に振替貯金郵便として取立方を郵便局に依託の處往々集金郵便に對して故なく支拂を拒絕し尙他の方法に依りても送金なき者あれ共斯くては會費滯納者として遺憾ながら規則第十三條第一項に依り途に會誌の配布を停止せらるゝに至るべく又本會に於ても未納金督促の手數一通ならず故に今後右樣のことなき樣特に御留意の上集金郵便に御拂込相成たし

會誌未着の場合の注意

會誌は毎年毎月十五日（印刷又は原稿等の都合に依り遲延する事あり）に發行し漏なく配布すべきに付未着の場合には一應本會に御照會相成たし從來往々發行後數ヶ月經過して照會せらるゝ向あるも斯くては殘部皆無となり遺憾ながら配布不可能のことあるべきに付御留意相成たし

雜誌閲覽に就ての會告

下記の雜誌は本會事務所に備付置候間御希望の向は下記時間內御隨意に御閲覽相成度候。

閲　覽　時　間

日曜日及祭日休，土曜日自午後一時至同四時，其他自午後四時至同八時。

但し役員會，委員會等開催の日は御斷り致すこと有之哉も計られず候間豫め御承知置被下度候。

備　付　雜　誌

衞生工業協會誌
機械學會誌
業務研究資料（鐵道大臣官房研究所）
建設
建築雜誌
工學部紀要（東大，京大，九大）
工學報告（東北帝大）
工業化學雜誌
工事畫報
工政
港灣
國際築建時論
造船協會々報
帝國鐵道協會々報
鐵と鋼
電氣學會誌
電氣製鋼
土木建築雜誌
日立評論
名古屋工業會々報
滿洲技術協會誌
其他寄贈雜誌

廣　告　料（東京市京橋區築地上柳原町八番地 電話京橋 872 番 振替東京 3069 番 東京第一通信社取扱）

普通廣告　一回一頁　40 圓　一回半頁　25 圓

指定廣告
- 裏表紙三面對向及廣告初頁　一回一頁　60 圓
- 裏表紙三面　一回一頁　150 圓
- 色アート　一回一頁　75 圓

○指定廣告は凡て一箇年繼續申込のものに限り取扱ふものとす
○會員自身の廣告に對しては總て上記料金の一割引とす
○同一廣告の連續掲載申込に對しては半箇年分五分引，一箇年分一割引とす
○廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす